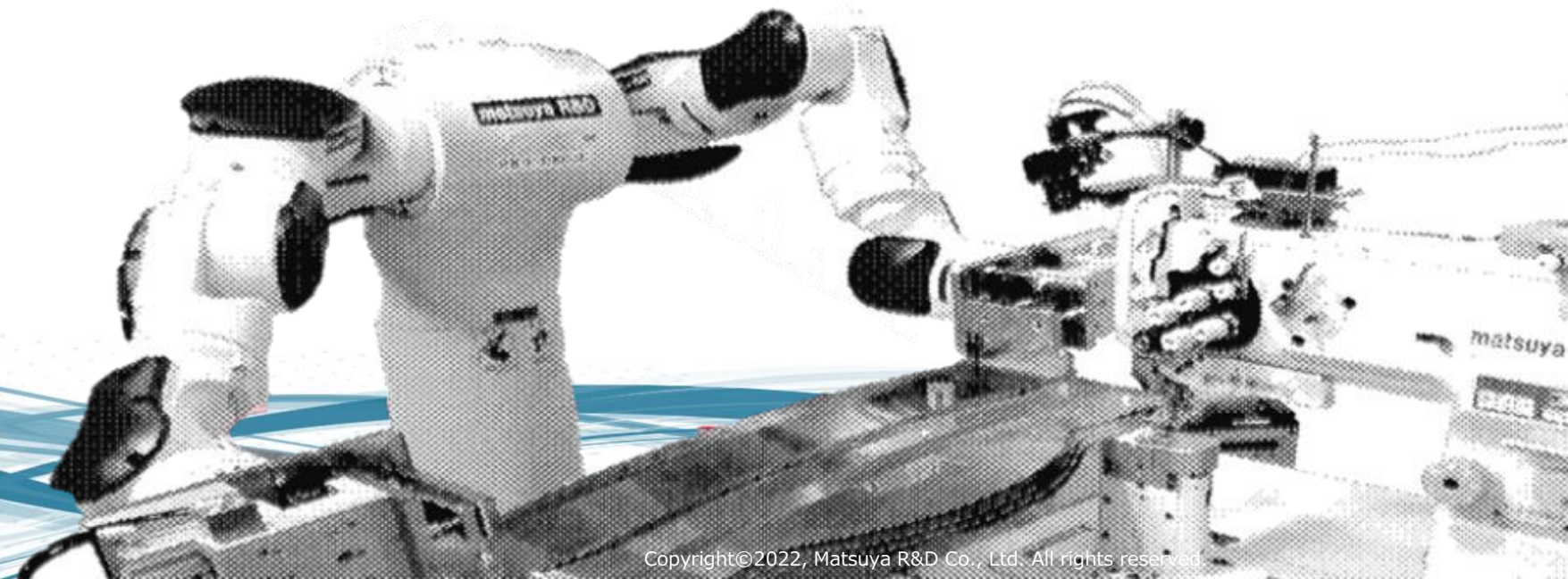


株式会社松屋アールアンドディ（証券コード：7317）

2023年3月期第2四半期 決算説明会資料

（2022年11月）



1. 2023年3月期第2四半期実績

2. 成長戦略

2023年3月期第2四半期実績：サマリー

- 中国のロックダウンや半導体不足によるメーカーの生産稼働停止の影響を一部の工場で受けるも、円安の影響のほか、主要工場であるベトナムでは安定的に稼働できたことから**増収増益**となった。
- 縫製自動機における新規受注、エアバッグ事業の新規生産開始により、売上増加となった。

	2022.3 2Q実績 (百万円)	2023.3 2Q実績 (百万円)	前年同期比
売上高	2,446	2,872	117.4%
売上総利益	523	613	117.2%
売上総利益率	21.4%	21.4%	0.0
営業利益	89	202	227.1%
経常利益	95	290	303.3%
税金等調整前当期純利益	21	290	1,335.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	19	204	1,071.1%
1株当たり四半期純利益(円)	3.64	38.80	1,065.9%

2023年3月期第2四半期：セグメント別売上高&利益

- ・医療ヘルスケア事業においては、血圧計腕帯が中国のロックダウンや半導体不足の影響を受けるものの、円安の影響もあり、売上高は回復傾向にある。
- ・セーフティシステム事業においては自動車メーカーの生産停止の影響を受けるも、縫製自動機における新規受注、エアバッグ事業の新規生産開始により、売上増加となった。

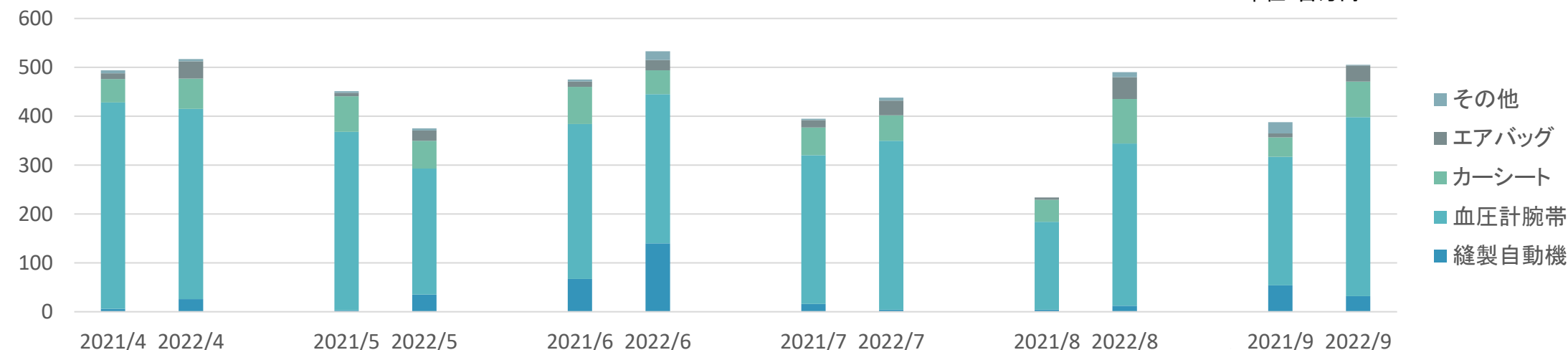
	2022.3 2Q実績 (百万円)	2023.3 2Q実績 (百万円)	前期比
売上高	2,446	2,872	117.4%
医療ヘルスケア事業	1,885	2,029	107.6%
セーフティシステム事業	546	835	152.8%
その他	13	7	57.7%
セグメント利益又は損失(△)	89	202	227.1%
医療ヘルスケア事業	385	412	107.0%
セーフティシステム事業	△163	△82	—
その他	1	△3	—
調整	△134	△124	—

2023年3月期第2四半期実績：月次推移

・当第2四半期は前年度におけるベトナム工場でのロックダウンは発生しておらず、安定的に稼働していることから前期比では**増収増益**となった。

製品別連結売上高月次推移

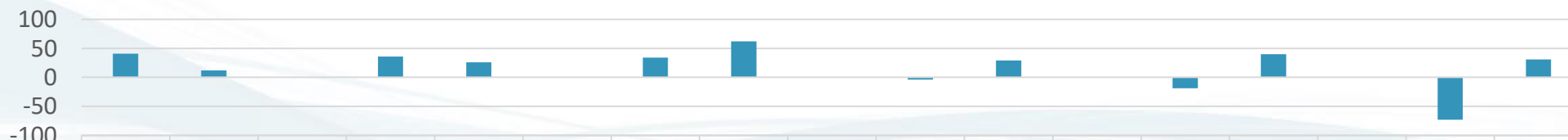
単位：百万円



売上高 495 520 452 378 476 536 397 438 235 490 390 505

連結営業利益 月次推移

単位：百万円



	2021年 4月	2022年 4月	2021年 5月	2022年 5月	2021年 6月	2022年 6月	2021年 7月	2022年 7月	2021年 8月	2022年 8月	2021年 9月	2022年 9月
■ 営業利益	41	12	36	26	34	62	-4	29	-19	40	-73	31

※：「新型コロナウイルス感染症対応による損失」を含む。

※

※

※

2023年3月期第2四半期：連結貸借対照表

		2022.3 実績 (百万円)	2022.9 実績 (百万円)
	現金及び預金	1,492	2,141
	売上債権等	1,367	1,455
	棚卸資産	2,544	3,073
	有形無形固定資産	1,190	1,905
	その他	293	266
	資産合計	6,889	8,842
	仕入債務	663	575
	借入金（長期含む）	1,385	2,637
	リース債務（長期含む）	423	433
	その他	1,179	1,307
	負債合計	3,651	4,953
	純資産	3,237	3,888
	負債純資産合計	6,889	8,842

2023年3月期第2四半期：連結キャッシュ・フロー計算書



Think sewing Think future

	2021.9 実績 (百万円)	2022.9 実績 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△287	32
投資活動によるキャッシュ・フロー	△44	△647
財務活動によるキャッシュ・フロー	70	1,174
現金及び現金同等物の換算差額	2	89
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△258	648

	2021.9 実績 (百万円)	2022.9 実績 (百万円)
減価償却費	111	128
設備投資	△38	△640

営業活動によるキャッシュ・フロー
前年度はベトナムロックダウンによる稼働率低下により減少。

投資活動によるキャッシュ・フロー
松屋ベトナム新工場投資のための土地取得代金の支払の増加。

財務活動によるキャッシュ・フロー
松屋ベトナム新工場投資のための借入実行による増加。

2022年度（2023年3月期）業績予想

- ・ 2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年5月13日付で「2022年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）」において公表いたしました業績予想と変更はございません。
なお、当第2四半期連結会計期間末現在、経常利益以下は概ね予定を上回って進捗しております。

	2023.3 公表ベース予想 (百万円)	2022.9 実績 (百万円)	進捗率
売上高	6,166	2,872	46.6%
営業利益	410	202	49.3%
経常利益	435	290	66.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	315	204	65.0%

1. 2023年3月期第2四半期実績

2. 成長戦略

メディカルヘルスケア事業およびセーフティシステム事業の拡大

ベトナムを中心とした生産基盤をもとに3D縫製自動化ラインなど自動化に取り組み、
メディカルヘルスケア事業及びセーフティシステム事業のそれぞれの受注を拡大

新たな業界への拡大

Medical Healthcare

医療用装置の開発

リハビリロボット事業

P.10

最先端ウェアラブル機器

Anti Virus分野(防護服、ガウン)の縫製自動機及び縫製品

ベトナム生産受託事業の拡大

P.11

Safety System

**3D画像処理付き
Sewing Robot**

P.12

省力化ラインの推進

P.13

ドローン用エアバッグ

リハビリロボット事業：Luna EMG認証取得

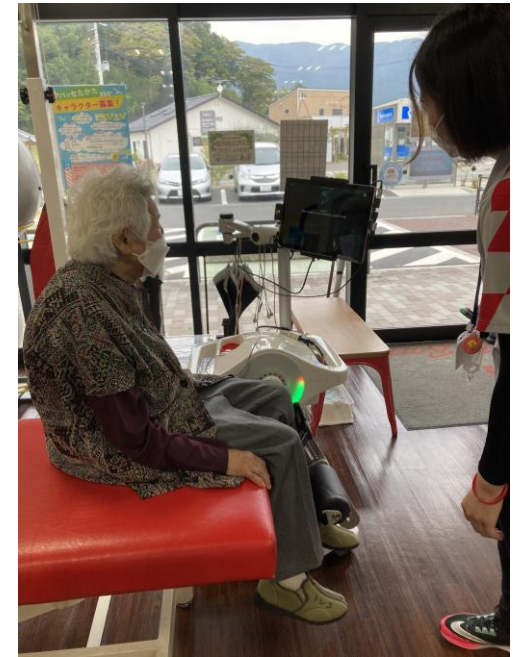
2022年7月に多目的リハビリテーションロボット Luna EMG の医薬品医療機器法における製造及び販売にかかる認証を取得しました。

「地域新成長産業創出促進事業費補助金（地域デジタルイノベーション促進事業）」に係る事業者採択され、「リハビリテーションのデジタル化による生産性の向上と健康寿命の延伸」事業を開始し、ロツツ株式会社様にて試験運用を開始しました。

これまでデジタル化できていなかったリハビリテーションの効果をLunaEMGを用いて、DX化することで、リハビリテーションの生産性向上と健康寿命の延伸を図ることを目的としております。

（現状の試験状況）

- ・現在10人程度が週2回使用。
- ・利用者の方にも**好評**、高齢の方にもゲーム感覚で**楽しみながら利用**いただいている。
- ・Luna EMG**利用前後で体の動きや歩き方の改善がみられる。**



ベトナム生産受託事業の拡大：松屋ベトナム新工場建設着工

2022年2月10日に開示しました「事業拡大に向けての大型投資（20億円）に関するお知らせ」に関連して、10月にHONAI工業団地に41,638.4㎡の工場用地を正式に取得し、新工場の建設が開始されました。11月1日に地鎮祭を行い、基礎工事を進めております。なお、現時点で、新工場建設に関する計画は予定通り進捗しております。

（新工場イメージ 土地面積41,638.4㎡、建築面積約25,000㎡を予定）



（地鎮祭の様子）



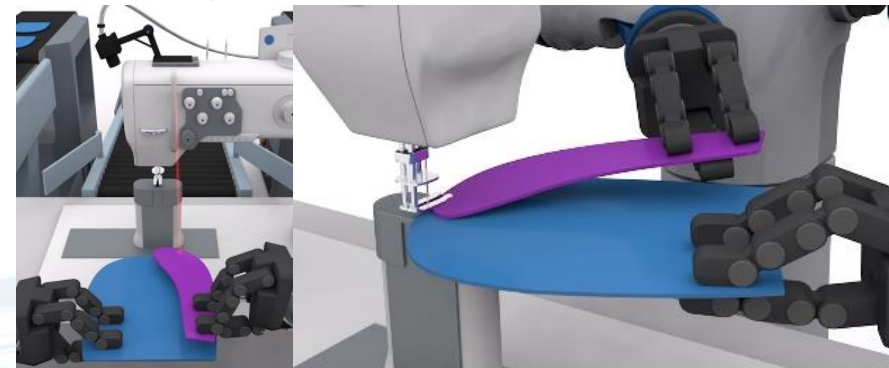
現状の取組

- ・現在、オムロン株式会社（以下、オムロン）と、伸び縮みのある柔らかい素材の縫製を実現する技術の検証を目的としたAI画像処理技術を駆使した3D縫製ロボットの共同開発を進めております。
- ・技術検証として試作機を製造し、複数の特許を申請予定。
- ・熟練縫製工を必要とした高度な縫製作業をロボットで置き換えることが可能となり、人手不足を解消することのほか、これまでの海外での低賃金で労働集約型生産であった事業を、当技術を利用したスマートファクトリーの構築へつなげていくことによる国内生産回帰を目標としております。

現在の立体マニュアル縫製方法



ロボットによる3D縫製のイメージ図



※本イメージは技術検証中のものです。

省力化ラインの推進：縫製自動機の特許取得

2ヘッドタイプの縫製自動機とは？

従来の60%程度のスペースで2台のマシンがお互いの縫製エリアを制限せずに相手のエリアに入って縫製できる自動機であり、**従来の約2倍のスピード**で縫製することが可能なため、**生産性向上及び生産コストの低減が期待**できる縫製装置となります。

当社は今までに2ヘッドタイプの縫製自動機について欧州の大手エアバッグメーカーを中心に20台以上を販売しております。

2022年6月にアメリカでの縫製自動機の特許取得

特許名：SEWING DEVICE（縫製装置）

米国特許番号：US2021/0079574A1

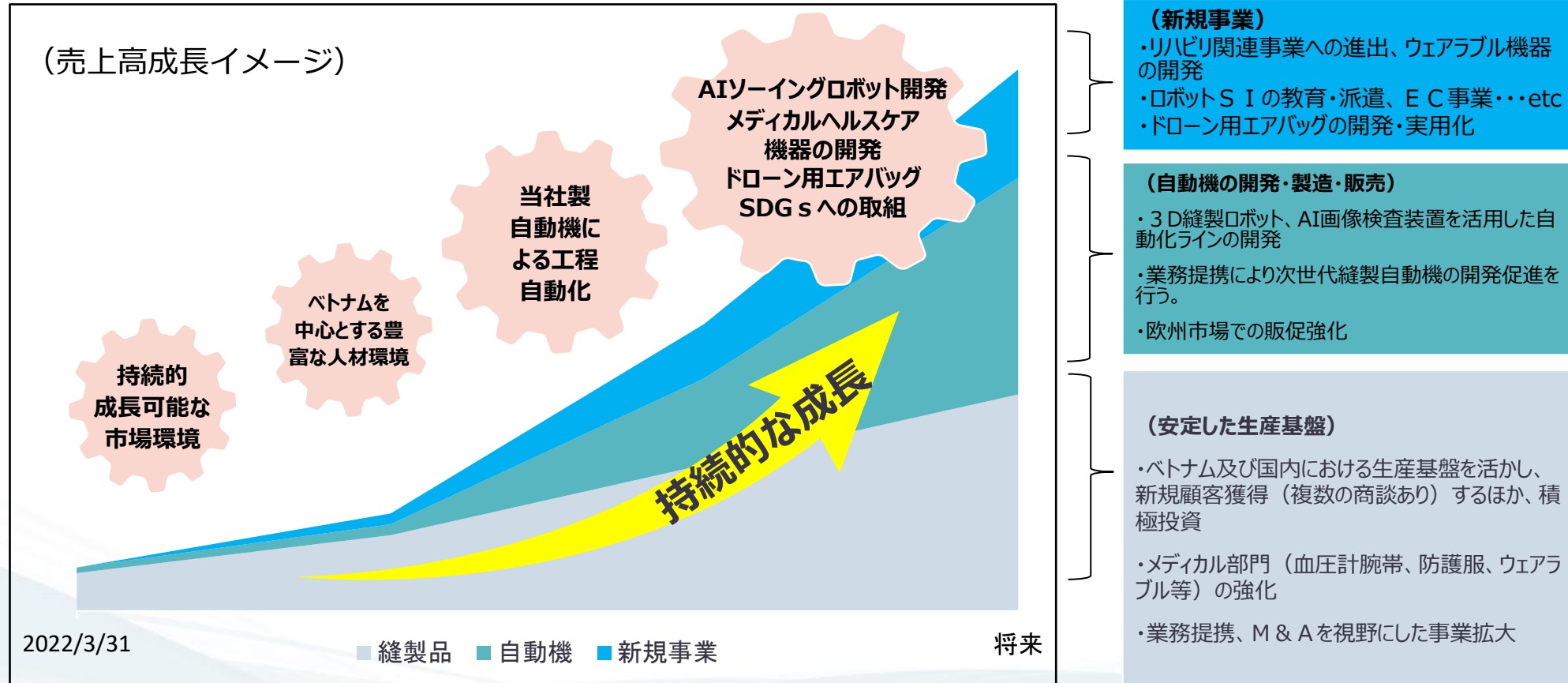
2022年10月に中国で縫製自動機の特許取得

特許名：縫製装置 特許番号：ZL 2019 8 0036767.0



成長戦略 成長イメージ

安定収入を生み出すベトナムを中心とした生産基盤を活かし、次世代縫製自動機の開発及び新規事業を中心に経営資源を投入し、持続的な成長を目指します。



本資料の取扱について

本資料には、将来に関する見通しや、事業戦略が含まれておりますが、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、リスクや不確実性が含まれており、実際の業績等が、これらの見通しや予測とは異なる結果となる可能性があります。

それらのリスクや不確実性には、一般的な業界、ならびに市場状況、金利、為替変動等の国内外の経済状況が含まれます。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等については当社は何ら検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。